

<認知症対応型共同生活介護用>

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 19 年 5 月 15 日 開始 10時 30分 ~ 終了 15時 00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム くりの (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏 名 <u>久留須 浩一</u> 氏 名 <u>福満 知洋</u>
事業所側対応者	職 名 <u>管理者</u> 氏 名 <u>松下 陽一</u> ヒアリングを行った職員数 (2)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4675700100		
法人名	有限会社 エミ企画		
事業所名	グループホーム くりの		
所在地 (電話番号)	始良郡湧水町米永181-1		(電話) 0995-74-1220
評価機関名	特定非営利活動法人シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号		
訪問調査日	平成19年5月15日		

【情報提供票より】(平成19年5月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	8人, 非常勤 11人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有() 円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(5月4日現在)

利用者人数	12 名	男性	3 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2	7 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	2 名	要支援2	名			
年齢	平均	81.8 歳	最低	51 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田代医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは韓国岳や栗野岳が一望出来る、緑豊かな環境に位置している。建物は2階建ての2ユニットとなっており、オープンデッキを各階に備え、2階には段差の少ない階段で安全に移動できるように配慮されている。開設して1年9ヶ月と歴史は浅いが、施設長・管理者をはじめ全職員が、入居者の「我が家」と「家族」となれるように、ケアサービスの質の向上に熱意を持って日々取り組んでいる。また終末期ケアの経験もあり、協力医療機関との連携状況も良好である。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>運営理念の明示・啓発、個別具体的な介護計画及び見直し、入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア、家族への日常の様子に関する情報提供、周辺施設等への理解・協力への働きかけについては概ね改善が見られている。ホーム機能の地域への還元については働きかけは行っているものの、介護教室等の開催までは至っていない。</p>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<p>全職員が職員会議などで自己評価の意義について共有を図っており、また適宜、自己評価内容も見直し・追加が行われている。</p>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>概ね2ヶ月に1回、入居者・家族・ホーム・地域・行政の各代表を交えた運営推進会議が行われており、入居者の状況・サービス内容・地域との関わり方・評価等について、活発な意見交換がなされており、そこでの意見・要望がサービス向上に活かされている。</p>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>ご意見箱の設置や年1回の家族会開催、また家族の面会時に意見、不満、苦情が無いかが聞き取りを行い、運営に反映させるように努めている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>自治会への入会や地域のイベント(豊祭相撲大会・県下一周駅伝大会応援など)に参加したりして、地域の一員として地元の人々と交流することに努めている。またボランティア交流も時折行われている。毎月、地域包括支援センターが主催している研修会へ参加する事で、行政との連携の機会を確保している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「このホームがあなたにとって最高の我が家となりますように 私たちがあなたにとって真の家族となれますように」を基本理念とし、新たに地域密着型サービスの意義として、「今日も一日笑顔 ありがとうの心が通い合う 地域社会の人々とともに 楽しい暮らしを目指します」を活動目標に掲げ、取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、開設当初より管理者及び職員に浸透・共有されており、ホーム内の数箇所に掲示されている。日々の取り組みとして、「家族ならどう接するか」を念頭に、入居者の訴えを良く聴く姿勢で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への入会や地域のイベント(豊祭相撲大会・県下一周駅伝大会応援など)に参加したりして、地域の一員として地元の人々と交流することに努めている。またボランティア交流も時折行われている。		子供との交流の一環として、職員や家族の子供・孫などを招待してイベントを行う計画もあり、今後更なる取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が職員会議などで自己評価及び外部評価の意義について共有化を図っており、自己評価内容も適宜見直しが行われている。外部評価の内容についても改善に向け、適切な取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、入居者・地域・ホーム・家族・行政の各代表を交えた運営推進会議が行われており、入居者の状況・サービス内容・地域との関わり方・評価等について、活発な意見交換がなされており、そこでの意見・要望がサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、地域包括支援センターが主催している研修会へ参加する事で、行政とも連携する機会を作っており、サービスの質の向上に取り組んでいる		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者ごとに決められた担当職員が、毎月、ご本人の暮らしぶりや健康状態などを、それぞれのご家族に発信・報告している。金銭管理についても、領収書を添付の上で報告し、適切な管理がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や年1回の家族会開催、また家族の面会時に意見、不満、苦情が無いか聞き取りを行い、運営に反映させるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職がある場合は、その半月ほど前から新人職員を徐々に組み入れていくなど、スムーズな引継ぎや利用者へのダメージを防ぐ配慮が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ケア会議を開催しており、その中で勉強会を設けたり、また様々な委員会を設置し、その中で色々な取り組みを行っている。また地域包括支援センターの研修会に積極的に参加している。新人職員については、段階に応じて育成できるような勤務体制を敷いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に参加しており、他のグループホームとの交流や、また地域の他施設職員との交流により、ネットワークづくりやサービスの質を向上させていく取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・ご家族が安心して、納得した上でサービスを利用できるように、事前に管理者等が訪問したり、見学をしていただいたりするなどして、馴染みの関係作りに努めている。また状況に応じて、入居後もご家族に付き添っていただいたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付け、梅干や団子、野菜作り、踊りを入居者から学んだりして、介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら支えあう関係を築いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「～が食べたい」「野菜を取ってきたい」など、入居者の思いや希望などに沿った対応を行っている。また入居者一人ひとりの得意な事やしたい事の変化も、日々把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より良く暮らせるように本人やご家族の要望を取り入れながら関係職員と話し合い、その意向・課題などが反映された介護計画が、入居者ごとに作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低でも6ヶ月以内に見直しを行っており、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、その都度見直しを行い、本人・ご家族の同意を得て、現状に即した新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況や思いに応じて、医療機関や行政との連携、また通院や送迎等、柔軟に必要な支援を行っており、可能な範囲で個々の満足を高めるような努力をしている。		開設から3年以上を経過していない為に、制度上、現在は短期利用共同生活介護(ショートステイ)及び共用型認知症対応型通所介護(デイサービス)の事業が行えないが、3年経過する平成20年8月以降に両事業開始の希望があり、今後の取り組みが期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族等の希望に応じて、主に在宅時のかかりつけ医と連携を取るようし、通院介助など適切な受診支援を行っている。また、協力病院との連携も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状況に応じて、適切な段階でかかりつけ医や本人・ご家族とよく相談が行われており、必要に応じて往診や入院時期の検討など、終末期に向けた適切な方針の共有が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食べ物をこぼしたり、失禁等による衣服汚染があっても、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように配慮がなされている。また個人の記録物も、カーテンで仕切っており、秘密保持が徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先することなく、入居者の意思を尊重して、出来ることは時間をかけてやっていただくように配慮し、食事や入浴等も一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を尊重して希望に沿った献立を取り入れ、一人ひとりが出来る範囲で、職員と一緒に食材の準備や調理、食事、後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や回数は本人の希望にあわせ、入浴を楽しめるように支援しており、毎日入浴したい場合も対応している。特に時間の希望がない場合は、湯冷めの来ない様に午後に入浴時間を設定し、無理強いをしない適切な支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや取り入れ・散歩(外出)・菜園の管理・同じ入居者に対する見守りや話し相手など、入居者一人ひとりの生活習慣や力を活かした様々な役割や楽しみごとなどの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿って、ほぼ毎日のように外出する。半径1km程度周辺の散歩に行ったり、近くにある畑を見に行ったりしている。また病院受診の際に他の入居者も便乗してドライブに出かけたりする事もある。散歩ができない入居者も庭にある菜園見学を行っている。		町内で運行されている、料金100円の周遊バスを活用して地域めぐりをする計画があり、さらなる外出支援の充実に期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、職員会議やケア会議などを通じて、鍵をかけることの弊害について理解を深めており、居室はもちろん日中は玄関及び野外に通じるドア鍵もかけないようなケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害対策として防火管理者を設置しており、消防署の協力を得て、マニュアルに基づいた年2回以上の避難訓練(夜間想定訓練含む)を実施している。また、非常時の連絡系統図があり、職員も事業所の近くに住んでいるため、すぐに対応できる体制を取っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	電解還元水を開所時から設置しており、入居者毎に準備しているものの、大まかな水分摂取量しか把握されていない。食事量については要観察の場合は経過記録に記載されているが、日々の摂取量については記録されていない。体重管理は行われている。	○	食事や水分の摂取量については、要観察の時に限らず、普段の摂取量が重要になる場合もある為、日々の記録が求められる。また、栄養バランスについても、栄養士との連携による献立のカロリー管理等が期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある掲示物や花が飾られていたり、ゆったり出来るソファやオープンデッキが設置されている。入居者が、それぞれにソファやオープンデッキでゆったりとくつろぐ姿が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、布団・タンス・テレビ・ハンガーなど入居者が馴染んだ家具や小物が多数持ち込まれており、湯飲みや箸も個人のもので、慣れ親しんだ好みのものを活かして居心地よく過ごせるような工夫が見られる。		